

◇ 北海道置戸高等学校 ◇

1 本校の概要

昭和26年4月に開校し68年目を迎えました。普通科、農業科設置など幾多の変遷を経て、平成7年から普通科・生活福祉科の併置校となり、その後、福祉科への学科転換ならびに普通科の閉科を経て、現在は道内唯一の福祉科単置校となっています。

本校の教育は、地元置戸町の深い理解を得て、地域と密接な連携を図りながら行っており、置戸町及び関係機関・団体から様々な支援を受けつつ、高齢社会を担う福祉のスペシャリストを養成する、魅力ある学校づくりを目指しています。

2 地域との連携・協働

①町内高齢者福祉施設見学

置戸町内にある高齢者福祉関連施設、事業所を見学することによって、町内の現状を知り、福祉を学んでいく1年生に対して、福祉観を醸成することを目的として実施しています。



高齢者福祉施設見学の様子

②小中学生・高齢者と交流

地元の小中学校との連携を図り、高校の実態を知ってもらうとともに、福祉に対する興味関心や知識理解を深めてもらうように、取り組んでいます。また、高齢者との交流を通して、介護福祉士像を構築していくために、置戸高齢者大学学生をお招きしています。



小学生との交流の様子

③おけと夏まつり

本校の学校祭は、おけと夏まつりと同じ時期に実施しています。

学校祭前日は、置戸町養護老人ホーム常楽園において、学校祭当日は、置戸町赤十字病院前と夏まつり会場において「よさこい」を演舞したり、メインイベントである「人間ばん馬」大会にも参加したりするなど、生徒の活気とパワーで夏まつりを盛り上げています。

3 本校のPTA活動

本校の多くの生徒は、道内各地から寮に入り生活しているため、本校ホームページに掲載している「置高日記」や、年間2回発行している「PTAだより」において、学校の取組や生徒の様子を会員に理解してもらうように努めています。

また、高P連全道大会や支部のPTA事業などに参加し、交流や情報交換を実施しています。



昨年のオケクラフト工作の様子

昨年度の本校PTA研修では、置戸町を代表する「オケクラフト工作」を通して、置戸町の良さを知るとともに、会員相互の親睦を図る交流を実施しました。